

## 令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立鬼怒中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第2学年	国語 160人	社会 160人	数学 160人
	理科 160人	英語 158人	

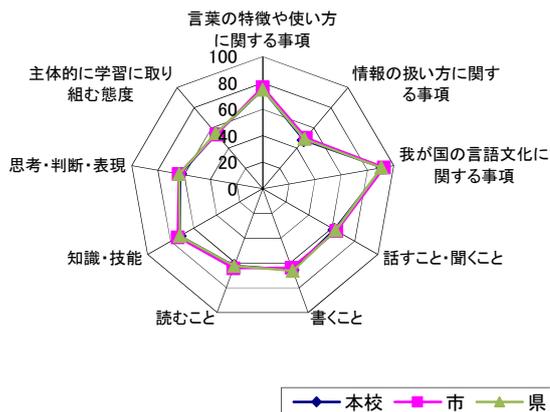
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.1	76.9	74.9
	情報の扱い方に関する事項	48.1	50.3	49.2
	我が国の言語文化に関する事項	91.8	92.6	90.7
	話すこと・聞くこと	62.3	64.2	63.4
	書くこと	65.6	63.7	66.4
	読むこと	62.4	64.2	62.5
観点	知識・技能	72.0	73.7	71.9
	思考・判断・表現	63.1	64.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	54.2	53.8	54.8



## ★指導の工夫と改善

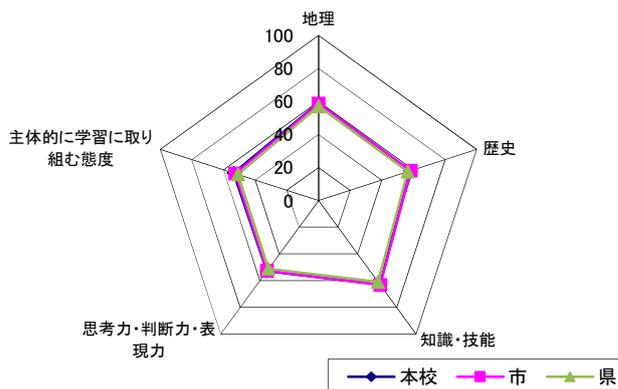
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて1.7ポイント低い。 ○漢字を正しく書く問いの正答率が高い。特に「敬(う)」は、県平均より9.1ポイント高い。 ●文を適切に単語ごとに区切る問いの正答率が、4.3ポイント低い。	・文法の単元において、1年生の文法学習を振り返る時間を適宜設け、単語と文節の違いや品詞等について理解を深めさせる。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて2.2ポイント低い。 ○文章中から必要な情報を探して、話の構成や内容を検討する問いの正答率が、県平均より2.2ポイント高い。 ●文章中から必要な情報を探して図示する問いの正答率が、県平均より4.4ポイント低い。	・説明的文章の単元において、文章の内容をプレゼンテーションソフトを用いて分かりやすく表現する活動等を取り入れ、目的に応じて適切に必要な情報を探す力を養う。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて0.8ポイント低い。 ●「ゐ」や、語頭以外のハ行を現代仮名遣いに改める問いにおいて課題が見られる。	・古典の文章を、グループやペアで音読し合う学習を進んで取り入れる。 ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す小テストに取り組ませる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均と比べて1.9ポイント低い。 ○自分の考えが明確になるように話の構成を考える問いの正答率が、県平均より2.2ポイント高い。 ●話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる問いの正答率が、4.6ポイント低い。	・話し合うことの単元において、話の方向や展開に気を付けて話すことができたかどうか、話し合いを録音することにより、生徒自身に評価させる。
書くこと	平均正答率は、市の平均と比べて1.9ポイント高い。 ○条件に従って自分の考えを書く問いにおいて、指定された長さで文章を書けている生徒の割合が、県平均より1.7ポイント高い。 ●条件に従って自分の考えを書く問いにおいて、指定された段落構成で書けている生徒の割合が、県平均より2.9ポイント低い。	・書くことの単元において、自分の立場を示す段落、そのように考える根拠を示す段落相手の根拠に対して反論する段落というように、段落の役割を明確にした文章を書くように指導する。
読むこと	平均正答率は、市の平均と比べて1.8ポイント低い。 ○文章の表現や叙述に着目して、自分の考えを持つ問いの正答率が、県平均より8.1ポイント高い。 ●文章の内容を叙述に沿って捉える問いの正答率が、県平均より4.6ポイント低い。	・説明的文章の単元において、特に文章の展開や文末表現に着目させながら筆者の問題提起とそれに対する結論を捉える学習活動を行う。

# 宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	59.0	58.7	57.0
	歴史	58.1	58.3	56.4
観点	知識・技能	63.0	63.1	61.0
	思考力・判断力・表現力	52.8	52.5	51.1
	主体的に学習に取り組む態度	53.6	52.6	50.8



## ★指導の工夫と改善

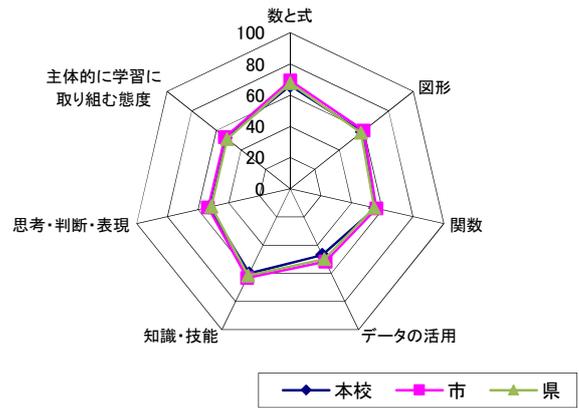
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>平均正答率は、市の平均と比べて2ポイント上回った。</p> <p>○世界のさまざまな国の特色、地図の特徴、日本の緯度経度、乾燥した地域に住む人々の生活、モノカルチャー経済に関する問題の正答率は7割を超えており、知識・技能の習得がみられた。</p> <p>●世界の様々な国の国旗の特色、日本の都道府県、日本の国土と排他的経済水域の面積についての問題の正答率は、市の平均よりも低く、複数の資料をもとに考察する問題に課題がある。</p>	<p>・ビデオ教材や地図、資料など視覚教材を効果的に取り入れた授業は一定の成果を上げているので、今後も継続していきたい。</p> <p>・知識をもとに資料と結びつける力を育成するために、今後も複数の資料を比較し、情報を読み取る活動を授業の中で意識的に取り入れていく。</p>
歴史	<p>平均正答率は、市の平均と比べて0.2ポイント下回った。</p> <p>○古代文明の特色、奈良時代の人々の負担、墾田永年私財法の制定による社会の変化、鎌倉時代の政治に元寇が与えた影響についての問題は、いずれも市の平均を5ポイント以上上回っており、知識をもとに資料について考察する力の定着がみられた。</p> <p>●武士の成長について、複数の資料をもとに考察し、表現する問題は、市の正答率を上回ったものの、正答率を無回答率が上回っており、自分の言葉で、適切に表現する力に課題がある。</p>	<p>・ビデオ教材や史料など視覚教材を効果的に使用しながら授業を行った成果が、社会的な思考・判断・表現の領域の力の育成につながったと考えられる。</p> <p>・今後も小テストや単元末テスト等を通して知識・技能の定着を図る。</p> <p>・考えたことを自分の言葉で書く力を育成することが課題である。授業の中で、本時の学習課題に対するまとめを書く活動や、分かったことを説明する活動をさらに取り入れていく。</p>

# 宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	66.0	69.3	67.7
	図形	58.4	59.8	57.7
	関数	55.5	56.2	54.7
	データの活用	47.0	51.6	49.9
観点	知識・技能	60.0	63.2	61.5
	思考・判断・表現	53.0	53.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	52.5	53.0	51.2



## ★指導の工夫と改善

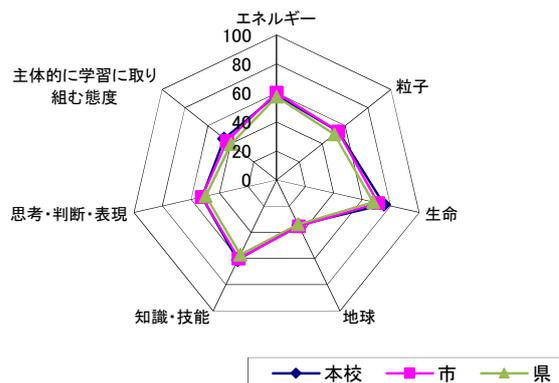
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率は、県の平均より低い。</p> <p>○負の数の大小関係について正しく理解することができている。</p> <p>●1次式の減法の計算について正しく符号を変えることができないことが課題である。</p>	<p>・特に、減法の計算で符号を変えて加法に直す計算ができていない。減法以外の基本的な計算方法には定着が見られる。継続的に反復学習を行い、符号や計算ミスに注意を払いながら計算する習慣を身に付けさせていきたい。</p>
図形	<p>平均正答率は、県の平均よりやや高い。</p> <p>○線対称について理解している。また、示された模様の基となる三角形の模様を選ぶことができている。</p> <p>●底面積が等しい円錐と円柱は、円錐の体積が円柱の体積の3分の1になることについて理解できていないことが課題である。</p>	<p>・万華鏡模様の性質について授業で取り扱ったため、線対称について理解が深まっている。</p> <p>・図を丁寧に書かせるなど図形を用いた活動をたくさん取り入れ、図形に関する様々な知識の理解を深めさせたい。面積や体積の求め方を理解させ、公式を確認し、繰り返し練習問題に取り組ませていきたい。</p>
関数	<p>平均正答率は、県の平均よりやや高い。</p> <p>○比例の式から、比例のグラフを書くことができている。</p> <p>●関数の定義についての理解ができていないことが課題である。</p>	<p>・関数についての理解が不十分である。文章から2つの数量関係を見出し判断する力を身に付けさせるために、2年の1次関数の分野でも比例のグラフとの関連を確認しながら指導していきたい。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、県の平均より低い。</p> <p>○2つの度数折れ線から傾向を読み取り、示された考えが正しいことを説明することができる。</p> <p>●累積度数について理解できていないことや、度数分布表から、ある階級の相対度数を求めることができていないことなど課題が見られる。</p>	<p>・資料の活用における知識・理解、技能、そして考え方は、他教科や総合的な学習の時間などでも活用できるように、機会を設け、学習したことが生きる場面を多く設定していきたい。</p>

# 宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	58.7	60.3	57.4
	粒子	53.8	53.8	50.7
	生命	75.3	71.2	67.8
	地球	34.3	35.3	33.8
観点	知識・技能	61.0	59.9	57.0
	思考・判断・表現	52.3	52.4	49.7
	主体的に学習に取り組む態度	45.8	43.3	39.8



## ★指導の工夫と改善

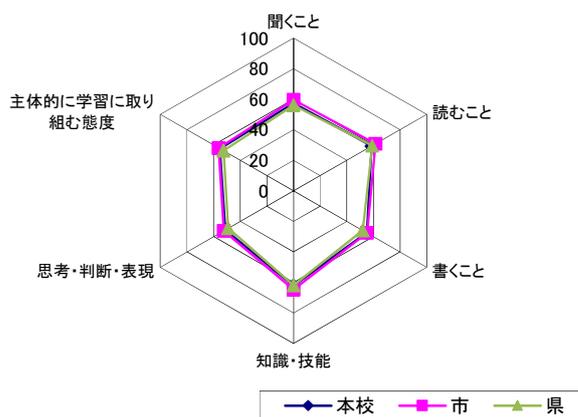
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均より1.6ポイント下回っているが、県の平均より1.3ポイント上回っている。</p> <p>○おもりにはたらく重力とばねののびの力を引く力についての理解は良好である。また、実験結果から、水中から出た光の進み方についての考察は比較的よくできている。</p> <p>●虹のような帯が見える現象が光の屈折に関係する現象であることへの理解が足りない。弦をはじいたときの振幅を、「振幅」という用語の理解が、唯一県平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習して獲得した知識を、身の回りの様々な現象に当てはめて考えさせる場面を意図的に設定する。特に、実験後のまとめや考察に重点を置き、科学的な思考・判断・表現の力をつけさせていく。</li> <li>光、音、力など目に見えないものを視覚的に表現して考えていく方法を身に付けさせる。</li> </ul>
粒子	<p>平均正答率は、市の平均と同じであり、県の平均より3.1ポイント上回っている。</p> <p>○気体を区別する方法についてはよく理解できている。質量と体積から、密度が大きいものを指摘する問いへの正答率は比較的高い。</p> <p>●尿素の結晶が出てきた理由を溶解度から分析する問いに48.4%が無解答であり、正答率は26.4%であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質が水に溶けているときの様子や水溶液の濃さを粒子のモデルと関連付けて説明できるようにさせる。溶質と溶媒、溶液の割合の関係を視覚的に捉えさせるために、線分図を利用して理解を深めさせたい。</li> <li>溶解度のグラフの解釈や濃度の計算などをタブレットを活用しながら、定着を図る。</li> </ul>
生命	<p>平均正答率は、市の平均より4.1ポイント上回り、県の平均より7.5ポイント上回っている。</p> <p>○植物や動物を分類する基準をよく理解している。ビワの花のつくりから、ビワの実が花のどの部分に由来するのかを指摘する問いへの正答率は市の平均より10.6ポイント高く良好である。</p> <p>●クラゲは軟体動物以外の無脊椎動物に分類されることへの理解が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの植物や動物を観察したり、映像を視聴したりして知識の幅を広げるようにする。</li> <li>無脊椎動物の分類は多岐にわたるため、様々な生物を比較して見出した共通点や相違点を基に分類できることを理解させ、分類の仕方を身に付けさせる。</li> </ul>
地球	<p>平均正答率は、市の平均より1.0ポイント下回り、県の平均より0.5ポイント上回っている。</p> <p>○地震によって発生するP波とS波のちがいについては理解できている。</p> <p>●地層が堆積した時代を推測したり、柱状図から考察したりする力が足りない。鉱物を観察するための双眼実体顕微鏡の使い方が身に付いていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地層や火山活動などの映像の視聴を積極的に取り入れ、視覚的に捉えさせる工夫をする。</li> <li>地層のでき方を整理し、堆積した当時の環境や時代を推測する力をつけさせる。</li> <li>観察の時間を多く設定し、一人一人が観察器具の扱いに慣れ、正しく操作できるように指導する。</li> </ul>

# 宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	57.5	59.6	56.1
	読むこと	58.7	61.6	59.1
	書くこと	55.0	55.2	51.9
観点	知識・技能	62.2	64.7	61.9
	思考・判断・表現	51.3	52.4	49.1
	主体的に学習に取り組む態度	55.3	56.1	52.5



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べて2ポイント下回った。</p> <p>○いつ、どこで、だれが、何を、どうするといった疑問詞の文を、おおよそ聞き取ることができている。</p> <p>○内容を聞き取り、適切な語句を自分の言葉で答えることができています。</p> <p>●対話の内容を聞き取り、資料をもとに答えることが苦手である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業の中で、ALTや他生徒との言語活動を多く取り入れ、インプットの量を増やしていく。</li> <li>・ALTとのTTの授業を実施しながら、教員同士の対話例を示す機会を多くもち、聞くことへの関心や慣れを育てていく。</li> </ul>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均と比べて3ポイント下回った。</p> <p>○be動詞、疑問詞などの語形・語法を正しく理解することができている。</p> <p>●ポスターやチラシの内容を把握し、必要な情報を読み取る問題に課題がある。</p> <p>●選択肢から解答を選ぶ問題では正答率が高いが、対話や文章の流れから適切な語句を自分の言葉で答える思考力・判断力を問われる問題には課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読む活動では、時制を意識しながら文章の内容を理解できるよう、長文に慣れ親しむ指導をしていく。</li> <li>・長文読解のつまづきをその都度確認し、日頃から基礎・基本の定着を意識した指導を行う。</li> <li>・ポスターやチラシ、対話文など、様々な形式のものから必要な情報を正しく理解し読み取ることができるよう、日々の指導に工夫をする(例えば、データを比べて意見を出し合う、など)。</li> <li>・記事を読んで自分の意見を書くなど、思考力・判断力を高める指導を行っていく。</li> </ul>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じで、県の平均を3.1ポイント上回った。</p> <p>○自分のことについての問いかけに対して、つながりのある文で答えることができています。</p> <p>●場面や情報を整理し、適する英文を書くことが苦手な生徒が多くみられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や場面設定を明確にし、生徒に英語の使用場面をよく理解させられるように指導の工夫を行う。</li> <li>・対話の流れを意識させ、対話の穴埋めの問題に取り組む時間を設ける。</li> <li>・質問に答えるだけでなく、相手に尋ねる英作文を書く活動を取り入れていく。</li> </ul>

## 宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年 生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家でテストで間違えた問題をやり直している」という質問に対し、肯定的な意見が市や県の平均よりも10ポイント以上高かった。各教科においてテスト後の指導として復習する機会を設けていることもあり、テストを振り返り学習に生かす生徒が増えてきた。

○「1か月に何冊本を読みますか」という質問に対し、10冊以上本を読む生徒が市や県の平均より10ポイント以上高かった。委員会活動として読書の励行の呼びかけや読書週間の充実、また図書だより等の啓発により読書に親しむ生徒が増加したと考えられる。

○「授業で分からないことがあったら先生に聞きに行く」という質問に対し、肯定的な意見が市や県の平均より10ポイント前後高かった。数学と英語におけるT2授業の実施や、生徒との信頼関係づくりなどが質問しやすい環境づくりに寄与したと考えられる。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことが苦手である」という質問に対し、苦手と回答した生徒が県の平均よりも10ポイント高かった。文章を「組み立てる」、「書く」といったことに苦手意識を抱えている生徒が多い。今後の重点目標に「読解力の育成」を掲げ、普段の授業だけでなく朝の活動なども利用しながら、文章を読み取る力、書く力を身に付けさせていきたい。

●「家で宿題などの決められた課題以外に、自分で考えて学習している」という質問に対し、していると回答した生徒が市の平均よりも4ポイント低かった。また、「平日に1日あたりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか」という質問に対し、3時間以上と回答した生徒が市の平均よりも8ポイントほど高かった。家庭で学習にあてる時間をもう少し増やせるよう呼びかけたり、課題の充実を図ったりなど、学習に意識を向けられるようにしていきたい。また、ノースマホデーなどを上手く活用しながら、情報機器の使い方等についても家庭への啓発を行い、家庭への協力もお願いしていきたい。

## 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業でパソコンを利用する機会を増やす。</li> <li>・パソコンを扱う技術の習得。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習など、情報収集やまとめ作業でパソコンを利用する。また、その際に使い方等の指導を行う。</li> <li>・問題演習等をパソコンのソフトを使って行い、家庭でも学習に取り組みやすいようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「本やインターネットを利用して勉強に関する情報を得ている」という質問に対し、市や県の平均よりもやや低かった。しかし、昨年度と比較した際に肯定的なポイントが上がっていた。</li> </ul>

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことが苦手である」という質問に対し、苦手と回答した生徒が県の平均よりも10ポイント高かった。文章を「組み立てる」、「書く」といったことに苦手意識を抱えている生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読解力の向上」を目指し、文章を読み取る力、書く力、論理的に考える力の育成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の活動を利用して新聞記事を読んで質問に答える取り組みを週に1回実施している。その際に、時事について触れたり、漢字の読みや意味について確認したりして、文字に触れる機会を増やしていく。</li> <li>・各教科において「読解力の向上」を意識した授業の取組や、研究授業の実施を行っている。</li> <li>・学校園全体として、読み書きを中心に「読解力の向上」に取り組んでもらうよう小学校にも協力を仰いでいく。</li> </ul>